

ワークライフバランスインタビュー

おん だ ち さ 子
恩田千佐子さん (中京テレビ放送株式会社)



●今の職業を目指したきっかけを聞いてみました

小学生のころ、アニメが好きでアニメソングの歌手や声優にあこがれていました。次第にその気持ちが高まり、将来はアニメに関わる仕事がしたいと思い、中学3年生の時、自分で声優教室を探して、週1回半年間通いました。入学金や月謝は、お年玉やおこづかいをためたお金からはりました。正直心細かったのですが、それでも「自分だけで決めたこと」をやりとげました。

ふり返ると、中学3年生で「好きなこと」を目指して行動できた自分が一番正直で、そこに今につながる原動力がありました。「やりたいこと」が見つければ、「そのために何をすべきか」が見えてきて、いろんな職種へと広がっていくと思います。

●仕事と生活のバランスについて聞いてみました

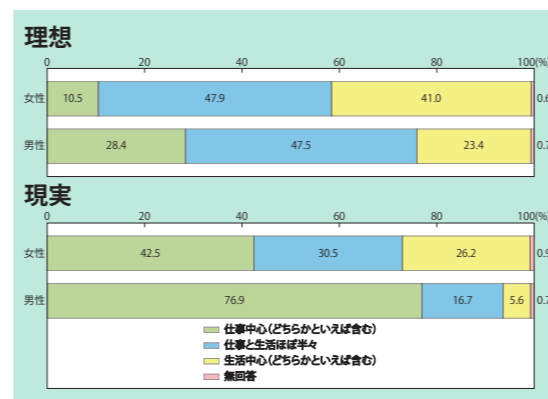
仕事と子育てにおいて、時間的、体力的に大変な時期はありましたが、短い時間を効果的に使い、周りのいろいろな

サポートを利用することで乗り切ることができました。最近、地域のみなさんといっしょに生きていくと感ぜられることが一番のやりがいです。思っていることに共感してもらえたり、アドバイスしてもらったり、そういうやりとりの中で自分も成長することができ、地域もよくなっていくことができたなら、うれしいと感じています。

●中学生へのアドバイスを聞いてみました

大人になってから思うと、中学生のときの勉強はすべての基礎となるので、ムダな勉強は何ひとつなく、3年間きちんとやることで、今後の人生に生きてくと思ひます。完璧にするのは難しいですが、「どうやって勉強すればいいのか」を

仕事と生活の理想と現実



平成22年度 第7回男女平等参画に関する基礎調査(名古屋市)

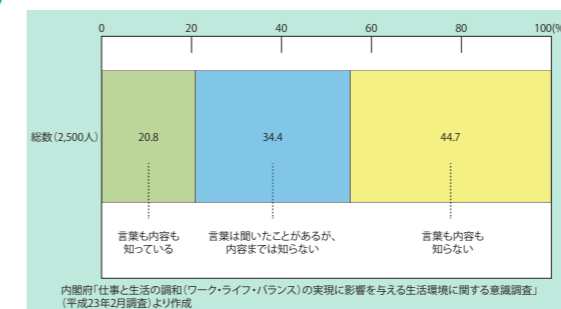
男女とも約半数の人が「仕事と生活ほぼ半々」が理想と答えています。現実には女性42.5%、男性76.9%が「仕事中心」と答えています。

身につけるのも将来の役に立つと思ひます。

友達とのやりとりの中で、ケンカしたり、仲直りしたり、いろんな経験があると思ひますが、時間の許す限り、勉強なり遊びなり、思い切って自分らしくやってほしいと思ひます。

子どもから大人になる途中で、悩むことも当然あると思ひます。そんな時は信頼できる人に相談してください。大人になってからも自分一人で決められることは意外に少ないものです。だれかに相談することによって、気持ちや考えの整理ができます。中学時代に困難にぶつかった時、悩み考え乗り越えた経験は自分の財産になります。「やれるかな」ではなく「やれる!」という気持ちが育っていきます。

仕事と生活の調和の認知度



平成24年度版男女共同参画白書(内閣府)

ワーク・ライフ・バランスという「言葉を聞いたことがある」人の割合は5割を超えています。しかし、「言葉も内容も知っている」人の割合は約2割にとどまっており、まだ十分に知られていないことが分かります。働き方の見直しや意識を変化していく取組が重要になります。